

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 港 小学校 学級数 16

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標
思いやりの心を持ち ふれあい 高め合う子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

事前研・事後研のワークショップ型研究協議

- 1 取組のきっかけ
一人一人が意見を出し合い、話し合いを深めることができる効果的な協議の方法として、昨年度研究部から提案され、取り組んできた。言語活動の中でも『話し合う』に重点を置くからには、教職員も一人一人が意見を出し合い『話し合う』必要があると考えられた。
- 2 取組の位置付け
研究部が中心となり、研究推進委員が話し合いを進めて取り組んでいる。
- 3 取組の方法
 - ① ブロックで大まかな指導案を作成
 - ② 事前研：模造紙大に拡大した指導案を囲んでグループ毎に話し合いを行う。話し合いは、書き込みした付箋を貼りながら行う。全体交流では、グループで出した意見をまとめて発表し合う。
 - ③ ブロックで指導案を完成
 - ④ 授業
 - ⑤ 事後研：事前研と同様に、グループで話し合い、その後全体で交流する。

取組の成果と課題等

- 取組の成果
 - ・全体での事前研を早めに行い、そこでの検討内容を指導案作りに生かした。
(成果) → 子どもにとって考えやすく、話し合いを深めることができる課題づくりを考えると、ブロックだけでなく全体から意見を聞くことが大いに役立った。話し合いの進め方についても、各学年で目標とするレベルを確かめながら教職員の意見を聞くことで、その後の指導案作りの参考になった。
→ それぞれのブロックというより、全体で指導案を作っている意識が高まり、研究に向かう教職員の姿勢が積極的になった。
 - ・事後研をグループ・全体の2段階とし、特にグループでの検討に時間をとった。
(成果) → 各自が書き込みした付箋を貼り、それをもとにグループで検討することで、教職員全員が意欲的に参加することができた。
 - ・話し合うときにも相手の考えを尊重し、お互いに高め合える力を育てるため、相手の意見をしっかりと聞き、その上で自分の意見を話すよう、普段から話し方の指導やそのための環境づくりをした。
(成果) → どちらが正しいという話し合いの進め方でなく、こちらの良い部分とこちらの良い部分を合わせるとより良い意見になるという話し合いもできるようになってきている。
- 教育課程検証の方法
 - ・全教科で話し合う力を育てることを意識した授業作りを行っているので、学期ごとに教育課程の見直しを行う際に、どの単元で特に話し合いに力を入れるか、どのように話し合いを行うかも学年で相談した。
 - ・学年末には、学期ごとの見直しをもとに、来年度の教育課程作りを進める予定。

